

「令和4年度 地域資源循環を通じた脱炭素化に向けた革新的触媒技術の開発・実証事業」

詳細資料作成要領

作成にあたっては、第三者にとって理解しやすいものとなるようにすることが肝要である。
 ページ数に制限はないが、ページを増やす場合であっても、簡潔にわかりやすく書くように努めることとし、また、各ページの右上に、「技術開発代表者氏名」を記載すること。

1. 技術開発体制・組織の記載例

No.	要素技術名又は分担業務の名称	氏名	所属機関名・部局・役職名	経費 (千円)	エフォート (%)
(1)	□□における□□に関する技術開発	海洋 広志	〇〇株式会社(2000000003) △△研究センター主任研究員	15,000	30
(2)	□□に関する□□解析	地球 守	独立行政法人〇〇研究所 (2000000002) 〇〇領域〇〇研究室室長	15,000	20
(3)	〇〇に関する技術開発	林 みどり	□□大学(2000000001) □□学部教授	10,000	40
		岳 巖雄	□□学部准教授		50

2. 技術開発経費の明細<委託事業> (様式P13~P22)

(1) 技術開発費の費目については、①人件費②業務費（諸謝金、会議費、旅費、消耗品費、借料および損料、雑役務費、外注費、賃金、通信運搬費、光熱水費、印刷製本費）③共同実施費・一般管理費に分けて、また、技術開発体制・組織に記載する要素技術名又は分担業務ごとに分けて記載すること。

(例)

①人件費

<人件費>

〇〇設計担当（1人、10ヶ月）	3,300
-----------------	-------

②業務費

<旅費>

技術開発打合せ旅費（つくば-京都；1泊2日 3回）	126
技術開発打合せ旅費（熊本-京都；1泊2日 3回）	100

<消耗品費>

〇〇センサー	45
〇〇分析用試薬	120

<外注費>

〇〇設計業務	2,500
--------	-------

<印刷製本費>

報告書製本費	50
--------	----

<借損料及び損料>

〇〇装置リース（10ヶ月分）	8,500
〇〇システムリース（10ヶ月分）	1,500

(2) 各項目とも事業の詳細がわかる主要な事項を記載すること。ただし、計と合計の部分はもみらず記載すること。

(3) その他留意事項

①提案した技術開発内容に対して技術開発経費が明らかに過大である場合は、審査の過程で評価委員に不適切な技術開発計画と判断される（各種評価は、技術開発内容及び使用した技術開発経費との対比で行われる。）場合があるので、実勢に従って現実的な経費を計上すること。

②備品の購入経費の計上は原則認めていない。（詳細 公募要領「5. 応募にあたっての留意事項」）

③消耗品の上限は、5万円未満とする。それ以上の物品は、消耗品である理由書を提出し環境省の承認を得るか、備品の扱いとすることとなる。

3. 論文・特許等の知的財産権・その他実績の記載例

<論文・特許等の知的財産権・その他実績>	
事業実施者	論文タイトル・著者名等
温暖 防司	(1)Yamada I and Ondan B. A Global study on ……biosphere. <i>Global Science</i> , 2010;25:451-462. 技術開発の関連性： (2)温暖防司. ○○地域の○○に関する…に関する研究. 地球環境学会誌 2009;1:5-20. 技術開発の関連性： (3)○○の○○の測定方法 日本、出願番号平18-11111○ (18. 6. 19) 技術開発の関連性：